

# 雷の子

カトリック町田教会  
町田市中町 3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512

いかに  
<http://www.machida-catholic.jp/>



イエズスは、洗礼を受けてすぐ水から上がられた。 マタイ2：16)

## 十八、二十、三十、成人

主任司祭 林 正人

私は今年三月で、司祭叙階から九十八年になります。並居る先輩・大先輩の司祭たちから見れば、未だ洩垂れ小僧ではありましようが、本年四月より、日本の成人年齢が十八歳になることを考えると、司祭として、「成人を迎える」と言ってもよいのかなー。かようにも思っています。以前にも書きましたが、司祭叙階時、私はコンベンツァル・フランシスコ会の方と一

緒の叙階で、ミサの最後、修道会の上長司祭にお祝いの言葉を戴いたのですが、それが中々心に残る、否、刺さるお言葉で、曰く、「叙階から三年は『お試し期間』です。三年無事に過ぎたら、初めて司祭と認めてもらえます」。緊張していた叙階式ミサが終わりに近づき、いささかホッとしていたところに、目の覚めるパンチを食らったようでした。そこから、「お試し期間」

が過ぎ、外国で体重が五十キロまで落ちながらも何とか司祭として生き残り、赴任先の教会で信徒の皆様と子供たちに助けられ、決して順風満帆ではありませんでした。今年、一応の「成人式」。祝いに、一緒に叙階した神父様や、かつて働いた教会の青年たちと、パァーッと飲みに行きたいところではありますが。このコロナ禍。ムリですね。先月の成人の日、これは二十歳ですが、成人を迎えた青年たちがかつて学んだ学校で祝いの記念ミサがあり、司式をご指名戴き、新成人と共にミサを捧げました。彼女たちは二〇二〇年三月の卒業。つまり晴れの卒業式も、その後の大学生活も、総て新型コロナウイルスによる制限下で過ごしてきた子たちなのです。「二年前の卒業式は、ミサだけがあって、あとは追いつかれないように学校を出て、終わったんです」と話してくれました。いかに綿密に計画を立てようとも、コロナ感染者数が増加すれば、たちまち白紙に戻される昨今。件の成人の集い、私はミサの司式のみで失礼しました。さてその後の祝賀会は無事に行われたのか。今後はしばらく彼女らには(我々もそうですが)、計画してはチャラになるという不安定な

日々が続くことでしょう。かような状況下、自分を見失わず生きて行くには、いかなる時にもブレない「芯」のようなものを持つ必要があります。突然の変更、突然の中止。冷静に考えれば人間の人生など、これの連続です。時に絶望の淵に立たされることもある。それでも、「竹」のように、撓れども折れることなく。それが「大人」ということではないでしょうか。自分の中にブレない「芯」を持つ、それが「大人」。そうであるならば、僭越ながら、イエズ様が「成人」を迎えた

## スマイルになりますように

運営委員会議長 辻 成己

町田教会の皆様、求道者の皆様、最近、笑顔になられたのはいつでしょうか？ つい先程の方もいけば、「毎日伝えられるニュース」が原因で、不安や苦しみを感じる状況で、笑顔になんてなれない人多いと思います。2年前は、教会に行つてミサに与り、ミサ後は信徒ホールで、なにげない会話をしながら笑っていたことを思い出します。あたりまえで何でもないことが、いかに大切に貴重でかけがえのない時間だったのか、再確認させられる日々が未だに続いています。さて、私達、運営委員は、この特別な期間に皆様安心して教会に来られるよう、感染防止策を考慮した運営を検討し続けて参りました。前年の良かった運営を継承しながら、信徒の皆様から指摘や要望を伺い、状況に合わせて試行錯誤しながら改善した。初めての試みであったユーチューブ配信は、多数の改善点がありました。多くの方に協力頂き実施できたことは、良かったです。この1年間、教会運営に関して、至らないことや、ご心

### 2022年 町田教会の主な年間行事予定

- 1月1日(土) 神の母聖マリア
- 2月20日(日) 信者総会
- 3月2日(水) 灰の水曜日 [大斎・小斎]
- 4月10日(日) 受難の主日(枝の主日)
- 4月14日(木) 聖木曜日
- 4月15日(金) 聖金曜日
- 4月16日(土) 復活の聖なる徹夜祭・洗礼式
- 4月17日(日) 復活の主日
- 6月19日(日) 初聖体
- 8月15日(月) 聖母の被昇天
- 10月4日(火) 聖フランシスコ (アシジ) 修道者 (小田神父霊名)
- 12月24日(土) 主の降誕 (夜半)
- 12月25日(日) 主の降誕 (日中)
- 12月27日(火) 聖ヨハネ使徒福音記者 (林神父霊名)

配をおかけしたことが、たくさんあったかと思えます。この場をお借りして、お詫び申し上げます。

話は変わりますが、私は、運営委員として活動してきたことは別に、個人的に取り組んでいたことがございます。それは、「毎日伝えられるニュース」のことで、なかなか笑える気持ちになれない特別な期間だからこそ、皆様が一瞬でも良いので、笑顔になれるよう心がけていました。

例えば、マスクをしているので目元だけでも笑顔と判るようにして、教会入口で皆様と挨拶をすることを心掛けま

した。特に、教会に来てくれた子ども達とは、感染防止策を徹底しつつ、楽しい会話をしたり一緒に遊んだりしました。

約1年前、「雷の子」にも書いたとおり、皆様が少しでも笑顔になれるように取り組んできた私の小さな行動が、1人でも多くの方に伝わっていたのであれば幸いです。

私は、運営委員として2年間の任期を終え退任しますが、皆様にとって、今日という日が、すてきな日になりますように。そして、一瞬だけでもスマイルになりますように祈っております。

### 一日黙想会

# 受胎告知

小田武直神父(アシジのフランシスコ)

### 黙想のヒント

心に 神におまかせ  
予測できない恵みをいただく

汚れなきマリア修道院で行われた一日黙想会、小田武直神父(町田教会助任司祭)の「受胎告知」  
—お言葉どおり、この身になりますように—  
をルポ(池永廣美)



慈愛に満ちた完全な人...

4つの福音書のうちイエスの誕生物語はマタイ(1.18-25)とルカ(1.5-56)のみ

マリア以外のすべての人間に原罪があるため神のみ心に完全に応えられない! アダムとエヴァ、マリアはそれを可能にした唯一の人間!



ヨセフ (マタイ1.19-) 正しい人...

全て神のみことばを示すため

神の人間に対する救いが余すところなく明かされた

意味が示された

特別  
寄稿

### コロナ禍の時だからこそ

グアダルベ宣教会 カトリック石巻教会 ヲファエル神父

コロナ感染拡大が始まってから、もう2年以上経っています。毎日ニュースを見るたびに、感染者と共に犠牲になられた方々の数が急増し、不安やストレスを感じている方が多いと思います。この感染症によって世界は一変し、私たちは混乱と絶望の中で生きています。どこへ行っても「コロナ、コロナ」という言葉をよく耳にします。この感染症によって私たちの生きる力や喜びが突然、失われてしまいました。さらにコロナは、カトリック教会にも大きな影響を与えています。私たちの信仰生活が大きく変化し、必要な対策をとりながら短い形でミサを行ったり、または聖体拝領だけを行っています。ある教会ではご聖体拝領さえも出来ません。本当に悲しいことです。

しかし、今コロナ禍にある私たちはどのように信仰生活を続けられたいかと考えた時、いくつか気づかされました。まず、私たちの信仰を「教会」という建物で守るのではなく、私たちの家、家族の中で信仰生活を熱心に送るということです。そうすれば、たとえ今教会に行けなくても、個

おられるのであれば、日常生活で感じる悲しさ、苦しみ、悔しさ、不安を「喜びや希望」に変えて下さいます。パウロが言われた通り「弱っている時こそ、強くなる」と。コロナ禍はまだ続くと思いますが、私たちはキリスト者として出来る限り、信仰を持って神様との関係、信頼を深めながら、生きていく力、希望を失わないように、いつも笑顔で生活しましょう。そして、今コロナのことで苦しんでいる人々、自然災害で被害を受けている人、全世界の平和のために、祈り続けましょう。私も石巻から皆のために祈っていますよ。

### パヌルー神父

運営委員(教会業務担当)

五泉 孝

2年間運営委員を務めましたが、コロナ禍にあり、全体的に活動が制約され、どれほど皆様に奉仕できたか心配です。ミサの定員を減らしましたが、これは信者のミサにあずかる機会を制限したものではなく、むしろそれを確実にするものだとご理解いただければ幸いです。さて、猛威を振るっているコロナ感染症ですが、これを人間の背徳に対する神の懲罰だとする考えがいまだに広く

あります。この考えは、人間は自分の能力を過信するようになり、神から離れ、ついには自分を偶像化している、神はこれに怒り懲罰を与えているのだ、というものです。アルベール・カミュの「ペスト」に出てくるパヌルー神父もそのような考えです。「ペスト」は、第二次大戦後間もないアルジェリアのある都市でペストが流行し、市民がこれに立ち向かう姿を描いた小説です。ペストによる都市封鎖後、パヌルー神父はミサの説教の中で、ペストの蔓延は人々の信仰の不十分さに対する神から下された罰である、と決めつけます。神父の説教に思い当たる人もいたけれど、医師のリウーは、自分は集団的懲罰という観念にはなじまないと感じを述べます。その後、パヌルーとリウーはおぞましい体験をします。市の判事の幼い息子がペストにかかり、いまわの時を迎えます。二人は病床に立ち会いますが、幼子は苦しみに痙攣し、悲鳴を上げ、もがき苦しみながら死んでいきます。医師は神父に、「あの子にはどんな罪があったのだ？」と詰め寄ります。神父は、自分もつらかった、しかし、この世界には人間がいかにともしがたい事柄があり、そのよ

### コロナ下2年間の教会学校

島田 和人

「雷の子」編集係からの求めに応じ、たまごの会、土曜学校、日曜学校、中高生会のご2年間の動きについてご報告します。

子供たちを対象にしたこれらのグループは、いずれも2020年2月頃から8月まで活動停止を余儀なくされました。人と人の接触が大きく

うに神によって作られた世界を愛さなければならぬ、と応じます。

コロナの流行は神の罰には当たらないと思います。ペストの致死率が50%あった時代ならば当時の人にとって神の裁きと映ったかもしれないが、今では開発されたワクチンによって感染を防げるようになったからです。

コロナは、神が創った世界の仕組みのひとつだと思いません。決して神の懲罰ではありません。神の似姿として作られた私たちはそれぞれ義しくあらねばなりません。医療従事者が自らを感染の危機にさらし、ただ目の患者を救うことに専念していることはキリストの愛であり、町田教会でクラスターを発生させまいとする私たちの努力は義しいものだと思います。

制限されるなか、8月末からは土曜学校・日曜学校の合同でオンライン教会学校を開始、12月にはクリスマス会をオンラインで実施し、クリスマスカードの交換を行いました。事前にクリスマスカードを子供たちに送付し、オンライン中に作成、郵送で戻してもらい、シャッフルしてクリスマスに到着するように再発送したのです。12月には中高生会もオンラインクリスマス会を実施、そこでプレゼント交換をしました。各自プレゼントを用意し、オンライン中に交換する人をあみだくじで決め、一度教会に集めてから各自が取りに来ることで無事に交換しあうことができました。

いづれも、子供同士の接触を避けながらもお互いの温かみを実感できるよう工夫したものです。

年が明けた2021年2月にも中高生会はオンラインで集い、お祈り―神父様のお話―ゲームで交流しました。3月には、土曜学校では卒業生を送る会、中高生会では冬の練成会の計画を立てましたが、緊急事態宣言延長のため中止。その後、4月に土曜学校は教会で時短で再開したものの、5月には再度緊急事態宣言発令のためオンラインに逆もどり、解除された6月からようやく、

たまごの会、土曜学校、日曜学校ともに教会で再開することができました。また、6月には中高生会で新入生歓迎会を行い、ボーリングで盛り上がりました。8月の教会学校夏期学校、中高生会練成会も計画は立てましたが、緊急事態宣言発令により中止。9月はオンライン教会学校を行い、宣言が解除された10月からは教会にて再開しています。12月には、たまごの会と土曜学校はクリスマス会を、日曜学校はクリスマス飾りつけを行っています。

このように、コロナ下では計画を立てても数週間で状況が変わり中止となることも多いのですが、今後もみんなので工夫し、しつかりと準備を続けていきたいと思えます。



**信者動静**  
2021年12月～2022年2月  
(個人情報のため、削除しています)

